

国際都市にふさわしい街づくり ～ 博覧会に併せて都市インフラ整備 I ～

■名古屋駅の移転

かねてから輸送量の増加への対応、鉄道線路の高架化、貨物と乗客の分離などが課題になっていた。笹島にあった旧名古屋駅を現在地に移転、昭和12年2月から営業を開始した。

併せて中川運河の北端には貨物専用の笹島駅が開業した。

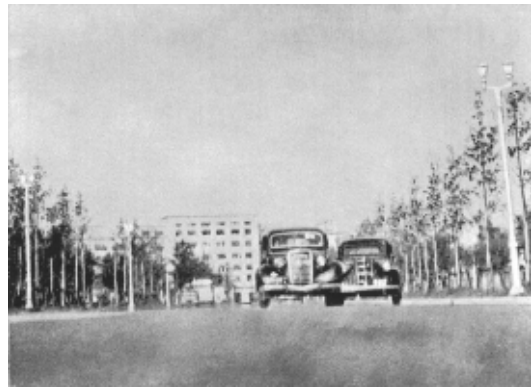


変貌する名古屋駅

出典：『目で見える名古屋の100年』上巻、郷土出版社

■桜通りの建設

名古屋駅の新築移転と同時に、新駅前から広幅員道路が建設された。名古屋市都市計画事業として昭和11年度に実施。「桜通り」の名称は一般公募で決定された。



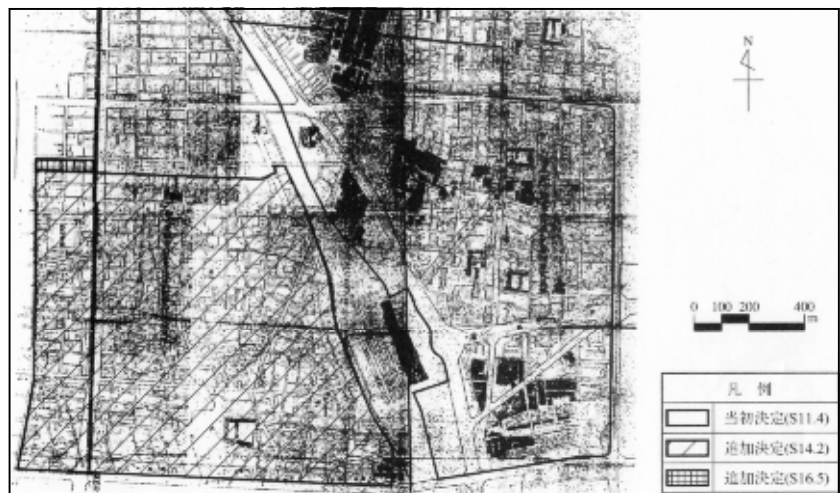
桜通りの建設（左は旧通り、右は新「桜通り」）

出典：『大正昭和名古屋市史』第五巻

■名古屋駅前土地区劃整理

国際都市の玄関たる名古屋駅前地区の機能及び美観の向上を目的とする、市の都市計画事業として昭和12年4月に都市計画事業の告示がなされ、昭和13年度より実施された。

事業は戦時下におこなわれたため、計画通りには進捗せず、敗戦時は名古屋市復興都市計画の一部として事業が続けられた。



名古屋都市計画図（昭和13年度より実施）

出典：『名古屋都市計画史（大正8年～昭和44年）』